

KIDSDOOR

認定NPO キッズドア

インパクトレポート 2023

1. 本報告書の目的

すべての子どもが夢や希望を持てる社会へ

本紙は、2023年度の活動説明を中心に、この1年間にキッズドアがキッズドアファミリー^(※)の皆さまと成し遂げてきたインパクトについてご報告します。

2023年度はこれまで以上に、現場での支援や全国の支援団体とのつながりを生かし、インパクトを拡大する事業モデルを推進しました。活動の対象も、従来からの子どもの学習・居場所支援、困窮子育て家庭支援に加え、様々な体験活動や高校生以上の若者世代の支援とその活動領域を広げました。具体的には、18歳以上の若者世代を支援するヤングサポート事業、こども家庭庁の助成金によるこども食堂等の支援、子どもを支援するNPO等団体を支援する活動、オンライン学習会の拡充等を行政、企業、助成財団との連携により日本全国に展開することができました。

この他、不登校や外国ルーツ、被災地支援といった貧困だけでなく新たに発生してきた課題への取組を、キッズドアファミリーの皆さまと進めてまいりました。

経済に目を向けると2023年度は、日本中があらゆるモノの価格が上昇する物価高騰に悩まされた年でした。とりわけ困窮子育て家庭においては一般家庭以上に、物価高騰が生活を直撃することになりました。この年に実施したアンケートから、食事を減らしている、学用品や参考書の購入を控えている、経済的理由で志望校を変更した等子どもたちにとって大事な成長や学びの機会が脅かされているという悲痛な声が聞こえてきました。

キッズドアは、2023年度も子育て困窮家庭の窮状を記者会見や新聞、テレビ等のメディアにお知らせし、支援の必要性を訴えてきました。こうしたアドボカシー活動は、他のソーシャルセクターとの声とも合わさり、困窮子育て家庭への現金給付の実現、進学格差解消のための受験料支援の実現といった制度改正に繋げることができました。2024年秋からは、児童手当の高校生世代への期間の延長、児童扶養手当の所得限度や第3子以降加算額の引き上げも実施されることになりました。

しかし、すべての子どもたちが夢を持てる社会の実現はまだまだです。今後もキッズドアファミリーの皆さまと一緒に、子どもの貧困解消や、子どもの明るい未来の実現に向けて邁進してまいります。

2024年11月

認定NPO法人キッズドア

理事長 渡辺由美子

調査室一同

^(※)キッズドアファミリー：寄付者、ボランティア、企業、団体、行政等あらゆるステークホルダーを、子どもが中心の社会を実現する仲間として「キッズドアファミリー」と名付けました。

2. 目次

1.	本書の目的	
	2		
2.	目次	
	3		
3.	社会環境		
	3-1. 社会環境	
	4		
4.	2023年度の活動の総括		
	4-1. キッズドアモデル	
	6		
	4-2. 支援の輪の拡大	
	7		
	4-3. 新たな課題解決に着手	
	8		
	4-4. 政策提言と実現	
	10		
5.	活動の詳細		
	5-1. 学習会	11
	5-2. 東北・仙台の活動	
	15		
	5-3. オンライン学習支援	
	16		
	5-3. 困窮子育て家庭支援	
	18		
	5-4. 18歳以上の若者支援	
	20		

3-1. 社会環境

困窮子育て家庭に物価高騰が直撃

（キッズドア調査室 「2023冬 困窮子育て家庭アンケート」（2023年11月実施）

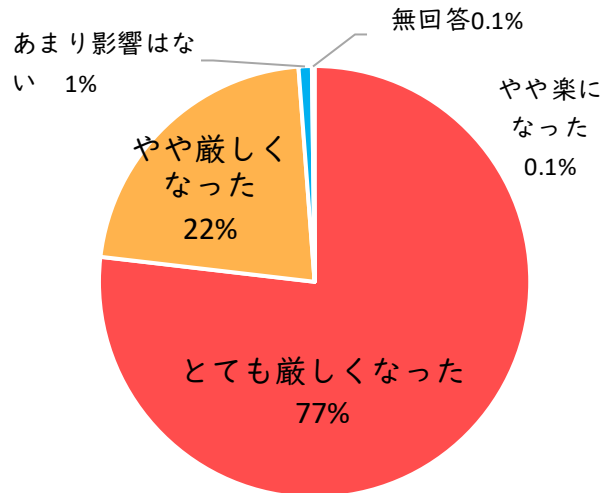
一般的にはコロナ禍は収束したと思われていますが、困窮子育て家庭ではコロナ禍のダメージから回復できていない家庭も多くあります。そこへ、物価高騰が襲い、コロナよりさらに深刻な実態が明らかになりました。

[家計]

ほぼすべての家庭で 厳しくなった

ほぼ全ての家庭が家計の厳しさを感じていました。2022年の同時期と比べた変化では「とても厳しくなった」（77%）との回答が約8割と最も多く、「やや厳しくなった」（22%）と合わせると99%を占めました。

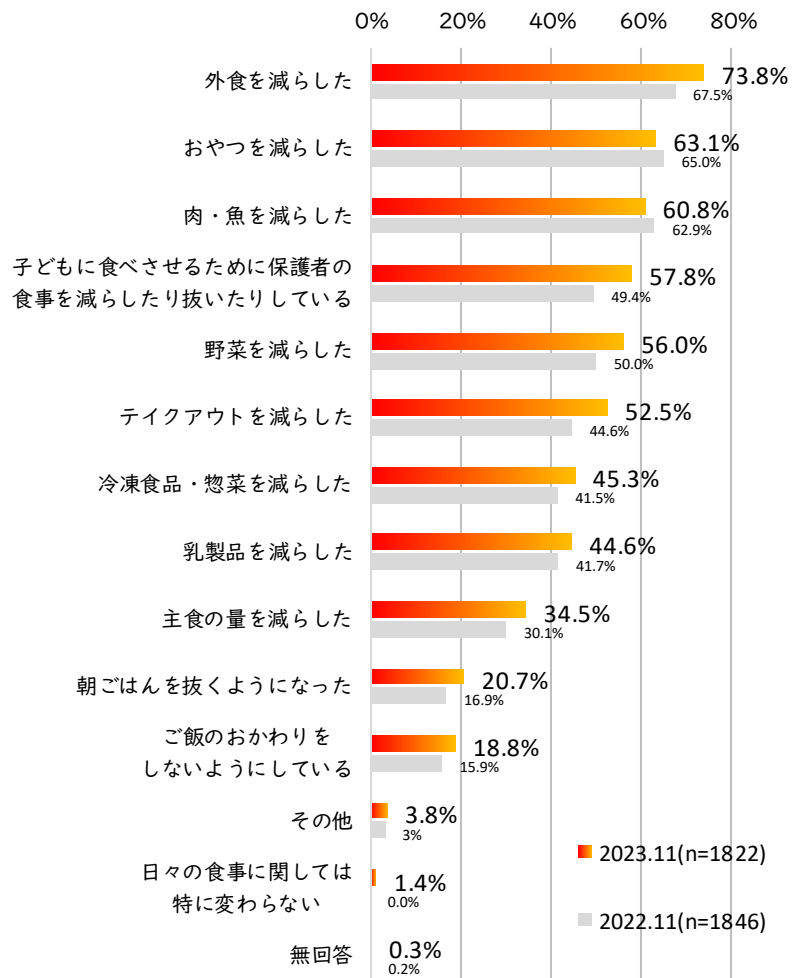
【家計の変化（2022年同時期比）】



[食事]

外食を減らし、食事の質も 量も減らしている

日々の食事の変化では、外食などの手段を利用せず、家庭で調理する食事の質を落とし・量を減らすなどの影響が広がっています。減らしたものは、「外食」（74%）、「おやつ」（63%）、「肉・魚」（61%）、「保護者の食事」（58%）、「野菜」（56%）が半数を超えていました。



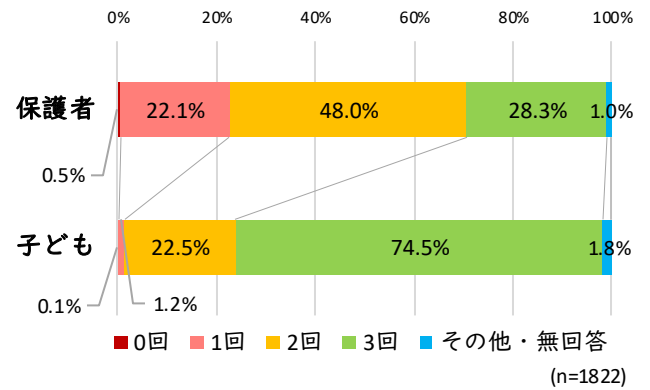
3-1. 社会環境

[食事回数]

子どもの4人にひとりには1日に2回。保護者は半数が2回

昨日の食事の回数を尋ねたところ、保護者は「2回」（48%）が約半数と最多。子どもでも、「2回」（23%）と、食事の回数に影響が出ていました。

【昨日の食事の回数】



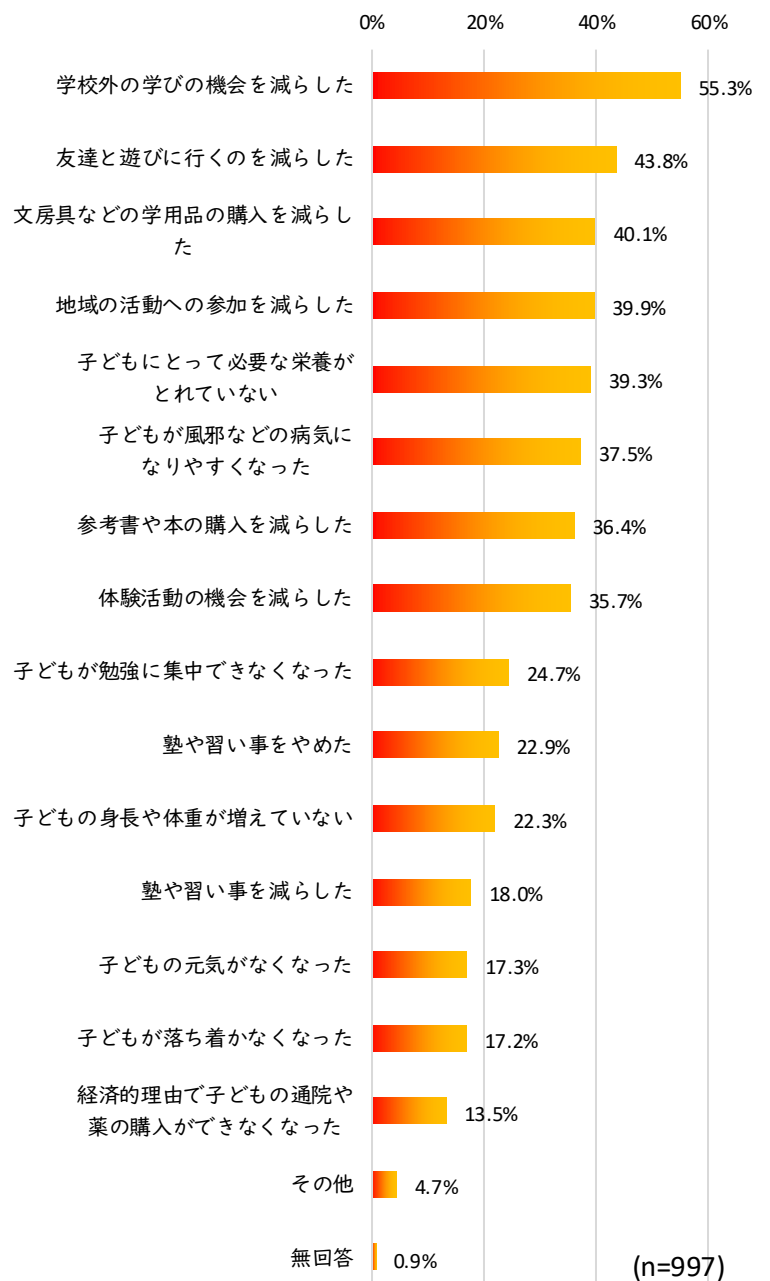
[悪影響]

学校外の学びや体験の機会を減らす

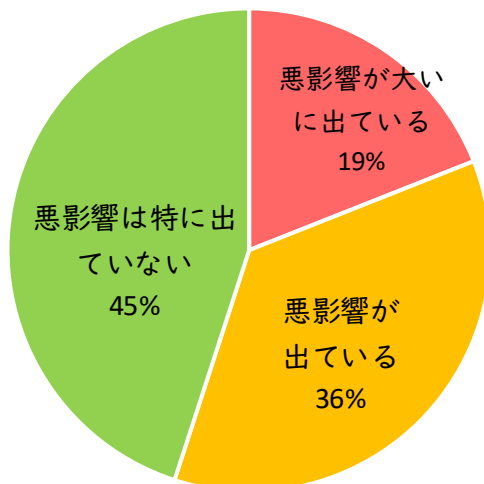
子どもの成長や生活の状況について、全体の半数超の家庭で悪い影響が出ているとの結果が得られました。

悪影響の具体的な内容としては、「学校外の学びの機会を減らした」（55%）が最も多く、「友達と遊びに行くのを減らした」（44%）、「文房具などの学用品の購入を減らした」（40%）、「地域の活動への参加を減らした」（40%）が続きました。

【子どもへの悪影響の具体的な内容】



子どもの成長や生活への悪影響の有無



4-1. キッズドアモデル

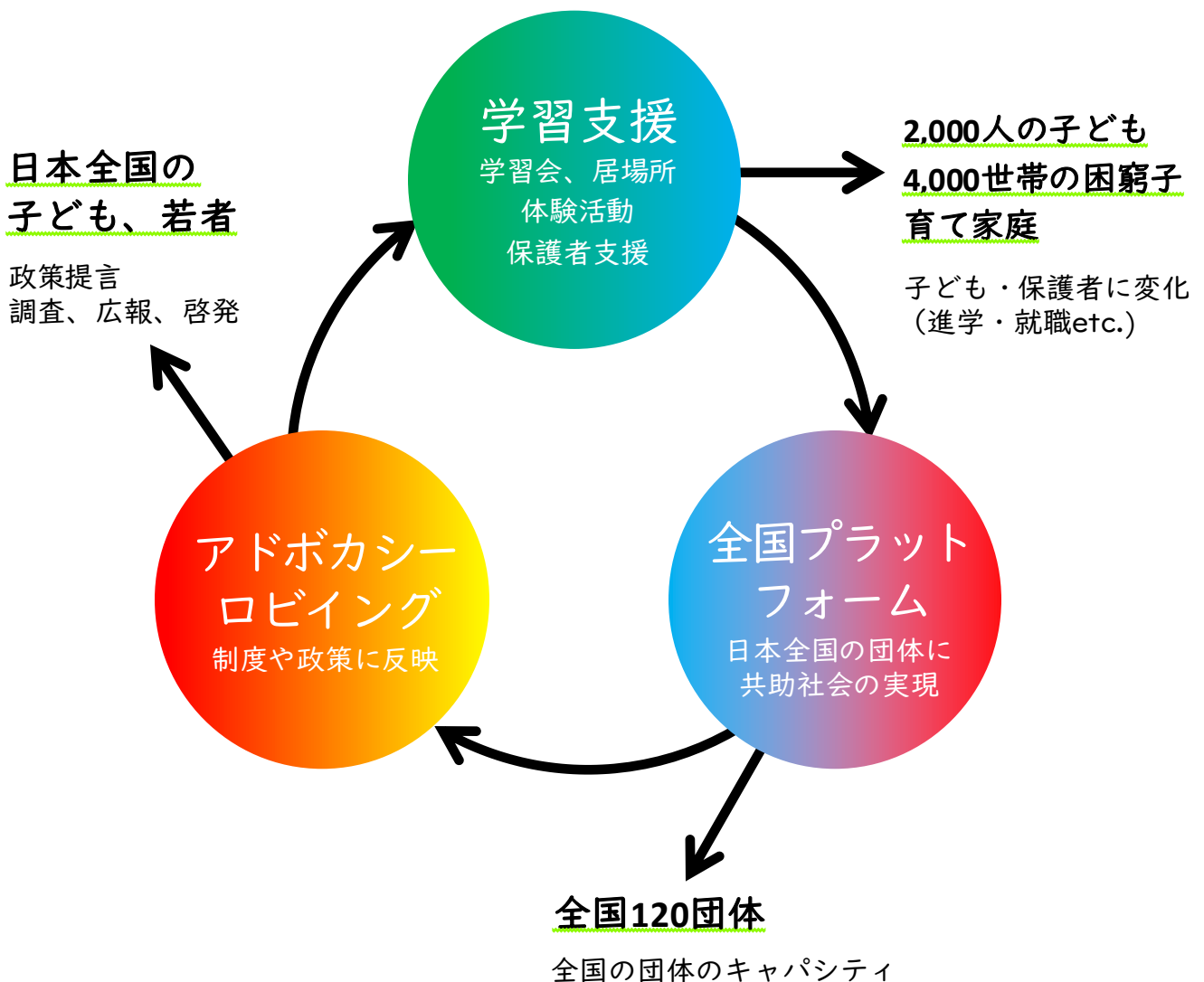
「社会を変える」を実現するキッズドアモデル

キッズドアでは、現場の支援や全国の団体とのつながりを生かし、政策提言で成果を出す、インパクトを最大化する事業モデルを確立しています。

無料学習会や居場所の運営、様々な体験活動の提供、また子どもだけでなく、保護者や家庭全体に対しても、生活に必要な食料や物資や情報の提供、就労支援を行っています。

加えて、パートナー支援として子どもの支援に取り組む他団体に研修や助成を行い、また、企業や他団体と協働して事業を拡大しています。これらの活動やキッズドア独自の調査を通じて見えてきた子どもの貧困の実態や課題を広く社会に発信し、必要な支援について提言することで、子どもを取り巻く環境の改善につなげています。

インパクトを最大化するキッズドアモデル



4-2. 支援の輪の拡大

キッズドアファミリー 支援の輪の拡大

キッズドアは2007年の事業開始（2009年NPO法人化）以来、日本の困窮家庭の子どもの支援に取り組んできました。子どもの学習支援から始まった活動は、コロナの影響や社会環境の変化に合わせて、様々な領域に拡大しています。支援のカタチや大小問わず、ご支援いただく全ての方々を”キッズドアファミリー”と呼んでいます。私たちは、“キッズドア”と“キッズドアファミリー”で“すべての子どもたち”の可能性を最大化することを約束しています。このキッズドアファミリーの輪を大きくすることで、つまり支援の輪を拡大することで、「キッズドアの果たす役割がなんらかのカタチでインフラ化した社会」をめざしています。



学習支援・居場所支援で直接支援した子ども

2,078人

ファミリーサポート事業で支援した子育て家庭

4,193世帯

ヤングサポート事業で支援した18～29歳の若者

2,735人

活動に参加したボランティア

1,080人

パートナー支援事業でサポートした子ども支援団体

延べ 346団体

学習支援や居場所事業等を受託した行政

こども家庭庁、東京都教育庁、東京都中央区・世田谷区・品川区・目黒区・足立区・港区・杉並区・江戸川区、千葉県柏市、埼玉県草加市、宮城県南三陸町

寄付や助成を受けた企業・団体

168団体

個人寄付者

3,715人

4-3. 新たな課題解決に着手

4つの切り口から次の課題解決に着手

① 時間
ライフステージ

② 成長
学習意欲

③ 地域
全国エリア

④ 課題
外国ルーツや不登校等

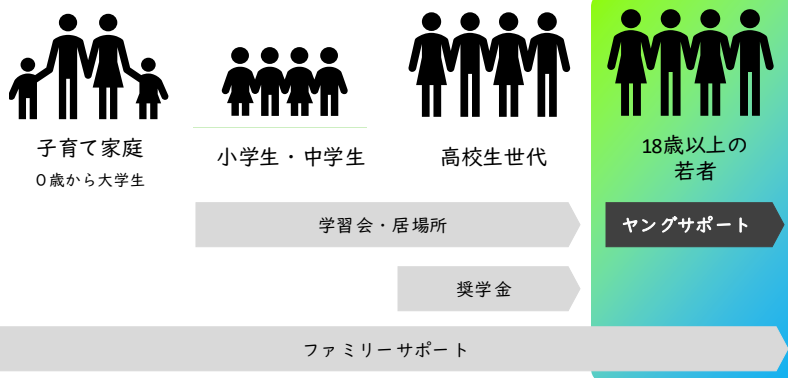
① ライフステージ

社会で自立するまでの切れ目ない支援

キッズドアでは、これまで高校生までの子どもを中心に支援活動に取り組んできました。しかし、その一方で、高校生が無事に進学や就職を果たしても、常に学費や生活費の工面に追われて、その後の生活に大きな不安を抱えている実態についても課題として認識してきました。

2023年度は、18歳以上の若者を対象に食料支援や情報支援、相談支援を行う

「ヤングサポート」を開始。子育て家庭を応援するファミリーサポートも対象を大学生までの子どものいる家庭に拡大。これらの取組によって、子どもたちが社会的に自立するまで切れ目のない支援を続けることが可能となりました。



② 学習意欲

成長段階に合わせた学習支援や体験活動

キッズドアにつながる子ども達の状況は様々です。一歩ずつ進みながら、子どもの夢や希望をかなえるように、学習支援・生活支援のプログラムを充実させました。



みらい塾

1. 食事提供、居場所など

自分の存在を肯定し、学習会や居場所に来るようになる

2. 体験活動、補習など

夢や希望を持っていいんだと思えるようになる



東京都足立区 農業体験活動

4. 受験対策、ITなど

子どもが夢や希望に近づくための「力」を手に入れる

3. キャリア教育など

自分の夢や希望を見つける



高校生世代の女子を対象に自身のキャリアについて考えるプログラム「STEP FOR TOMORROW」



イベント「Future Tech Explorer」ITで将来の道を切り拓こう

4-3. 新たな課題解決に着手

③ 全国エリア

日本全国に支援を拡大

キッズドアの活動を全国の子どもたちに届けられるよう、オンライン技術や他団体の力を活用しながら、着実に対象エリアを拡大しました。

オンライン学習支援

オンライン生徒数：300人

オンライン学習支援実施：9事業
うち

PC・タブレット提供：6事業

Wi-Fi機器提供：4事業



ごはん応援

支援団体数：延べ175団体

支援食事：485,000食



三菱商事 学習支援

スキルアップ研修



④ 外国ルーツや
不登校等

社会の変化で生じる課題に対応

外国にルーツのある子どもの支援、不登校の急増、東日本大震災の被災地の人口減少など、貧困だけではなく、様々な課題が生じています。行政や助成財団のご支援を受け、子ども達の支援を行いました。

不登校

キッズポートあや
せ・やざいけ
江戸川ユースサポート
仙台HOPPER

外国ルーツ

KICC
ことこと

被災地

南三陸高校
志翔学舎
仙台学習会

メンタル

心理士チーム

4-4. 政策提言と実現

社会に向けた発信と提言を継続

子どもの貧困等の実態を広く発信し、必要な支援が実現されるように政府等に働きかけを行いました。各種メディア、記者会見、講演等の様々な方法で、子どもや困窮子育て家庭が抱える課題と支援について情報発信と政策提言を続けました。新聞・雑誌、テレビやラジオ、インターネットメディア等、2023年度のメディア掲載は181回に達しました。

目指す社会の実現に向けて政策提言を継続

困窮子育て家庭が本当に必要としている支援が実現されるよう様々な提言を行いました。低所得の子育て家庭を対象とした給付金や受験料支援、児童手当と児童扶養手当の拡充など、粘り強い提言で実現に結びつきました。

2023年度の主な提言

困窮子育て家庭への現金給付

児童扶養手当の拡充

高校生の進学や生活への支援

18歳以上の若者への支援

保護者の賃上げ・就労支援

不登校の子どもの支援

実現した支援（予定含む）

低所得子育て世帯への
生活支援特別給付金
児童1人当たり5万円

低所得子育て世帯への
受験料支援
大学等受験料53,000円までなど

児童手当の拡充
高校生年代までの期間延長、
第3子以降増額（月額3万円）など

児童扶養手当の拡充
所得限度引上げ、
第3子以降加算額引上げなど

5-1. 学習会

子どもたちの学習・成長をサポートする様々な活動

2023年度は学習会・居場所等を約6,000回開催。小学生～高校生世代まで2,000人を超える子どもが参加しました。特に、支援が難しいために担い手が少ない高校生世代（高校生や中退等）の支援を増やしました。

開催回数	5,949回	支援した子ども	2,078人	
開催時間	延べ28,473時間		小学生	232人（前年比98%）
			中学生	837人（前年比97%）
		高校生世代	1,009人（前年比108%）	

学習支援

学校の授業のサポートに加えて、定期テスト対策や受験対策、英検対策などの幅広い学習支援を実施。

定期テスト対策	8事業	英検対策	7事業 英検の準会場登録をしているため、年に3回、教室を受験会場として試験を実施。ふだんの学習会の中での個別対応のほか、別日にも対策講座を実施した。
受験対策	15事業 推薦入試対策として、冬期講習会で面接練習を徹底に行った（質疑応答はもちろん、お辞儀の角度、前髪の長さやまとめ方も含めて）。		

子どもたちの成長サポート

学習会・居場所での食事の提供、保護者とのコミュニケーションや不登校の子どもへの支援、体験活動など、学習支援以外にも、子どもたちの成長を支える様々な活動に取り組みました。

食事提供	10事業	食事提供回数	延べ6,601回	不登校の子どもへの支援	12事業
------	------	--------	----------	-------------	------



防災体験施設KIBOTCHA（宮城県東松島市）へ日帰り体験の旅



VISA社員とのワークショップやオフィスツアー

5-1. 学習会

学習会・居場所の活動の成果

一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな学習指導で、多くの受験生が希望の進路に進むことができました。ロジックモデルを使ったインパクト評価では、学習会・居場所に参加した子どもたちの多くが、学習会・居場所を、安心して過ごせる、自分を応援してくれる人がいる場所と認識するとともに、勉強が分かるようになったと感じています。



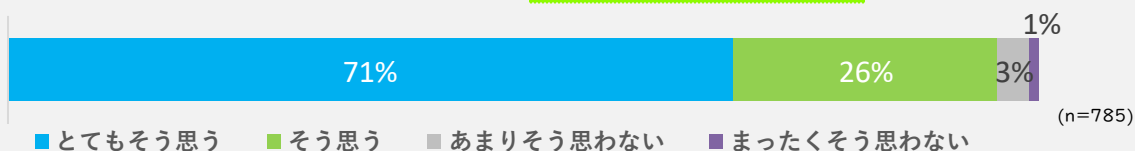
高校生世代向け『夢をかなえる進路Guide』

進路実績

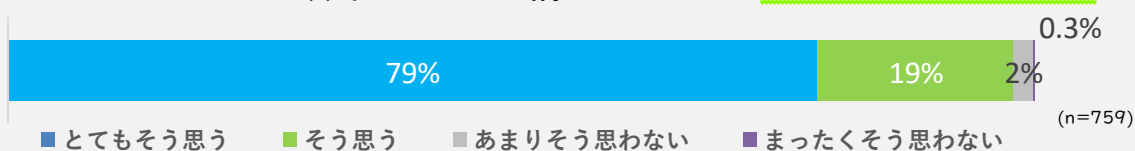
高校進学者	238人 (公立151人、私立87人)
大学・短大・専門学校合格者	延べ 190人 (北海道大学、東北大学、大阪大学、慶応義塾大学、早稲田大学なども合格)

ロジックモデル・アンケート 学習会・居場所に対する子どもたちの評価

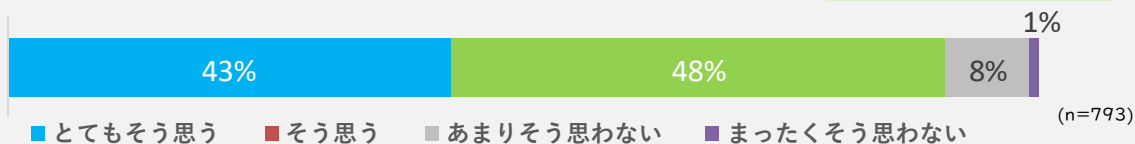
学習会・居場所は、安心してすごせるところ **97%**がポジティブ評価



スタッフやボランティアの人は自分のことを応援してくれる **98%**がポジティブ評価



1年間、学習会・居場所に通ったことで勉強が分かるようになった **91%**がポジティブ評価



5-1. 学習会

子どもたちから寄せられたメッセージ

- ✓ ボランティアの皆さんに教えてもらったことで、スピーチコンテストや英検で良い結果を出せました。ありがとうございます。その上、元からあった英語への苦手意識が薄れ、更に興味を惹かれました。ここまで変わったのは分かりやすく丁寧に教えてくれた皆さんのおかげです。
- ✓ いつも大学生の方や、海外の方とお話がたくさんできてとても楽しいです！年齢が違ったり、国籍が違ったりするかたとお話しする機会はほとんどないので、いつも新しいお話を聞かせてもらい、毎週金曜日が楽しみです。
- ✓ ごはん用意してくれてありがとうございます。毎回美味しい料理ばかりでした。物理は赤点とって絶望していた時期もありましたが、沢山質問に分かりやすく解答してくれたり、日常生活と物理の関連する話をたまに教えてくれた先生もいたので、受験本番までに一番楽しく勉強できる教科になりました。
- ✓ いつも勉強を親身に教えていただきありがとうございます。勉強だけでなく、奨学金や資格事情などについてたくさん知ることができました。また月に一度の面談で振り返りができ、アドバイスもいただけて本当に助かります。来年は受験生なので受けた恩をしっかり果たせるように日々精進していきます。
- ✓ 勉強は嫌いだけど、本当は行きたい高校がありました。担任の先生に却下され、高校受験をせずに卒業してやろうとも思ったけど、一緒に進路を考えてくれる人がいて心強かったです。
- ✓ 学校や家にはない落ち着いた環境で学習でき、自分の拙い話をスタッフの方々が聞いてくださったりするので、とても感謝しています。
- ✓ 私が分からない所があれば、対面でも、LINEでもすぐに教えてくださるところや、大学受験のために一緒に真剣に向き合ってくださいるところに、本当に救われています。
- ✓ この一年間ありがとうございました。入会する前は、大学入試の情報等があまり入らないのは勿論、自分でも日々の学習面がとても不安でした。ですが、たくさんの学習会に参加し、進学に対し現実的に向き合う事が出来ました。それと同時に、インターン参加など沢山の人と関わり、自分が見えていた世界が広がりました。学習会に参加していなければ、ここまで充実した、楽しい一年間にならなかったと思います。
- ✓ いつも勉強や宿題を丁寧に教えてくれてありがとう。学習では先生たちの教え方が分かりやすくて苦手だった教科をできるようになり、学校でも授業がやりやすくなりました。
- ✓ 学校で困ったことや、分からないことがたくさんありましたけど、この学習会に来てからは困っていることや分からないことが少しずつ減っていきました。安心しました。
- ✓ 自分はキッズドアに入って1年しかたっていないのですが、来るたびに優しく、ていねいに指導して下さいいつも良い気持ちで勉強ができています。優しい挨拶、丁寧なご指導、美味しい食べ物、いつもありがとうございます。

5-1. 学習会

Dialogue of the future

中学生・高校生が企業トップにインタビュー

日本における子どもの貧困の問題は、ただお金がないだけではありません。自分のお手本になる大人のロールモデルが周りにいないため、子どもが自分の明るい未来を描くことや、将来に向けて努力することができにくい現状があります。そこで生み出したこの企画「Dialogue of the future」は、中学生・高校生が企業の経営者の方々に直接お会いしてインタビューし、その対話を通してエネルギーをもらい、成長の機会にするものです。第一弾を2023年に開始以来、2024年10月までに17回実施。詳細は、noteブログにて発信し続けています。



参加者数	46人
開催回数	17回 2024年10月現在
実施期間	2023年6月～ 2024年10月以降も継続中



第1弾：藤本博久氏（ヒルトン日本・ミクロネシア地区開発担当副社長）



第3弾 玉塚元一氏（株式会社ロッテホールディングス代表取締役）

note ブログ
URL

https://note.com/note_kidsdoor/n/n4ecb56766099

これまでにご協力いただいたみなさま

- 第1弾 藤本博久氏（ヒルトン日本・ミクロネシア地区開発担当副社長）
- 第2弾 勝村嘉博氏（JPモルガン・チェース銀行東京支店法人営業本部長）
- 第3弾 玉塚元一氏（株式会社ロッテホールディングス代表取締役）
- 第4弾 堀江智生氏（株式会社Japan Asset Management代表取締役）
- 第5弾 木村一尋氏（株式会社クボタ 専務執行役員）
- 第6弾 鈴木勝氏（東食品株式会社代表取締役）
- 第7弾 George M. Logothetis 氏（Executive Chairman of Libra Group）
- 第8弾 川上紗実氏（MLBJAPAN 代表）
- 第9弾 須永順子氏（クアルコムジャパン合同会社 アドバイザリーチェアマン）
- 第10弾 特別編 イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
- 第11弾 及川美紀氏（株式会社ポーラ 代表取締役社長）
- 第12弾 橘正喜氏（三井住友ファイナンス&リース株式会社 代表取締役社長）

2024年度から

- 第13弾 山口明夫氏（日本IBM 代表取締役社長）
- 第14弾 川上結子氏（日本IBM 執行役員）
- 第15弾 福田譲氏（富士通株式会社 執行役員 EVP CDXO,CIO）
- 第16弾 津坂美樹氏（日本マイクロソフト 代表取締役社長）
- 第17弾 橋本康彦氏（川崎重工業株式会社 代表取締役社長執行役員）



第4弾 堀江智生氏（株式会社Japan Asset Management代表取締役）



第7弾 George M. Logothetis 氏（Executive Chairman of Libra Group）下：ニューヨークで実施したインタビューの様子



5-2. 東北・仙台での活動

東北の未来を担う子どもたちのために

2011年の東日本大震災から13年が経ちました。キッズドアでは長期にわたり東北の子ども支援を続けています。2023年の自主事業は、学齢や、目的に合わせて、学習会の種類が豊富なのが特徴です。

仙台市

東日本大震災以降、仙台市に拠点を置き仙台市および近郊の中学生、高校生向けに無料学習支援を行っています。ボランティア登録数は100人を越え、大学生から社会人、シニア層まで幅広い世代の方々が活躍しています。

南三陸町

過疎化が進む南三陸町の人口は、12,000人に満たない状況です。これまで毎年、仙台から大学生を派遣し、中学生向け無料学習会を実施してきました。南三陸高校の公営塾・志翔学舎の運営もしています。



食育プロジェクト 漁業体験(宮城県南三陸町)

体験活動

- ・食育プロジェクト(農業・漁業体験、郷土料理教室など)
- ・東松島市KIBOTCHAで防災体験
- ・泉ピークベースキャンプ体験
- ・家具作りワークショップ
- ・性教育セミナー
- ・マンション建設現場見学会
- ・プログラミング教室(南三陸IT-Drive)、他多数



キャンプ体験

学習会名(自主事業)	開催回数(回)	延べ参加数(人)
キッズドア学園中等部 (中1~中3)	125	1,946
キッズドア学園高等部 (高1~高3)	48	1,056
HOPPER(不登校中学生支援)	110	386
English Drive仙台 (中1~中3)	38	411
居場所型自習室Sりびんぐ (中3~高3)	49	951
南三陸町中学生向け学習会 (中1~中3)	27	461
合計	397	5,211

行政委託事業

- ・南三陸高校 公営塾 志翔学舎

進学実績(2023年度)

- 国公立大 **2**人
- 私立大 **7**人(慶応義塾大他)
- 専門学校 **6**人
- 高校進学希望者 進学率**100%**
- 仙台**38**人、南三陸**12**人



キッズドア学園中等部



南三陸町中学生学習会

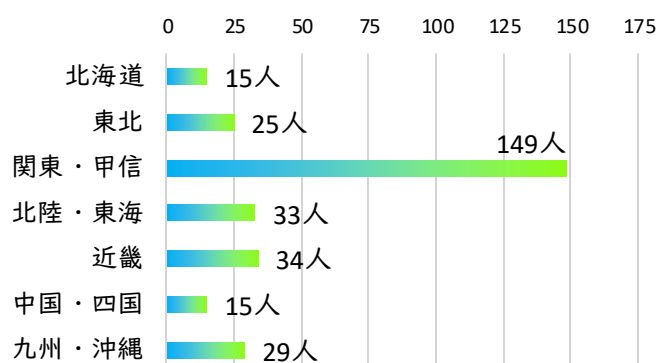
5-2. オンライン学習支援

全国に広がるオンライン学習支援

キッズドアの学習支援を全国の子どもたちに届けるべく、オンライン学習支援の取組にも力を入れ、北海道から沖縄まで日本各地の子どもがオンライン学習会に参加しました。また、困窮家庭ではオンライン学習のための環境が整っていないこともあるため、PCやタブレット、Wi-Fi機器等の提供も行いました。2023年度は約100人の受講生が参加し、塾や予備校に通うことができないなど、大学進学において何かしら困りごとを抱える高校生世代の受験をサポートするとともに、オンライン学習支援の有効性に関する調査や報告会も実施しました。

オンライン学習支援の実施	9 事業
学習用のPC・タブレット提供	6 事業 *オンライン学習支援実施事業中
学習用のWi-Fi機器提供	4 事業 *オンライン学習支援実施事業中

【地域別のオンライン学習支援生徒数】



キッズドア学園高等部オンライン

2022年10月に新たにスタートした「キッズドア学園高等部オンライン」は、大学進学を目指す困窮家庭の高校生を対象とした、全国から参加可能な完全無料の大学受験サポートの仕組みです。大学生をはじめとしたチューターを配置し、受講生が、大学受験経験者と学習の振り返りや計画立て、大学調べなどを行うことができる体制を整えています。

■サポート内容

- ・ 学習計画の作成
- ・ オンラインカウンセリング
(個別面談、セミナー)
- ・ ZOOM & LINEでの質問対応



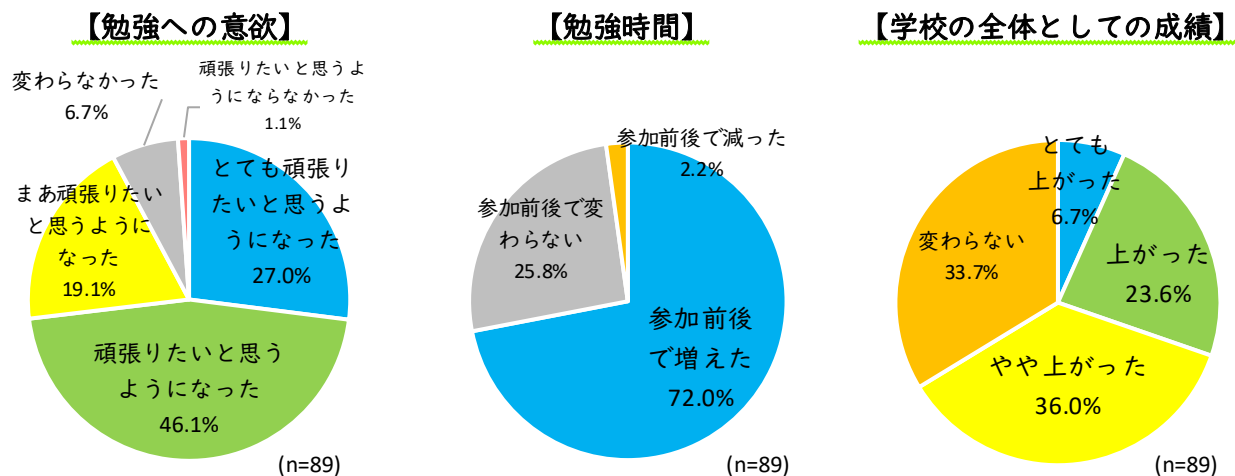
2024年3月開催の「困窮家庭の高校生に向けたオンライン学習支援の効果に関する調査研究報告会」の様子。

オンライン学習支援の成果

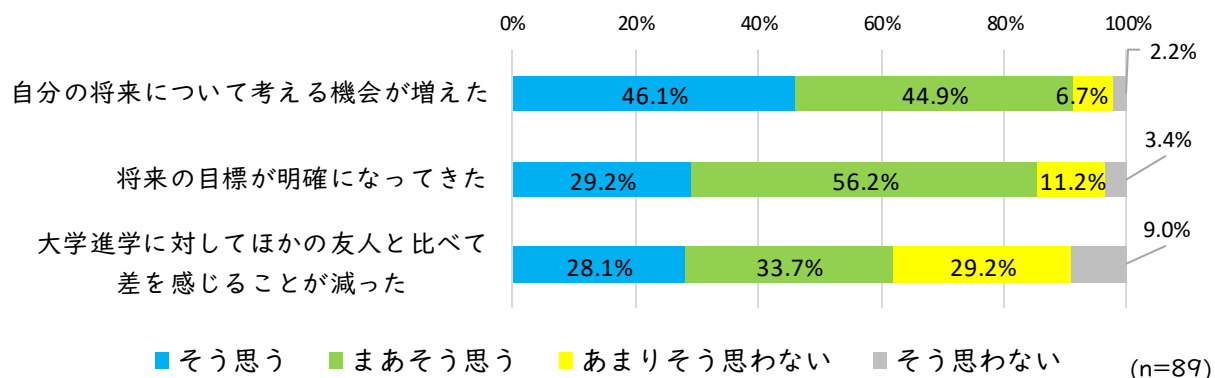
「キッズドア学園高等部オンライン」の生徒を対象に実施した調査からは、オンライン学習支援に参加したことで、勉強への意欲や勉強時間、成績に良い変化があったこと、進路や将来について考えられるようになったことが明らかになりました。

5-2. オンライン学習支援

キッズドア学園高等部オンラインに参加したことでの変化



進路についての考え方の変化



子どもたちから寄せられた声

- ✓ 担当のチューターさんが毎回のカウンセリングで丁寧に情報提供やアドバイスをしてくれる。
- ✓ 一人一人にあった学習の進め方について提案、振り返りを一緒にしてくれる。
- ✓ 移動の必要が無くその分時間を確保できる。
- ✓ 家の中で安心して学習できる。

保護者から寄せられた声

- ✓ 参加するようになってから大学進学の情報、またその後の進路に関して情報などが得やすくなったこともあり、子供自身が進学などのモチベーションも高まったように感じます。
- ✓ わが子の場合、成績が良くないので普通の集団塾ではレベルが合わず、かと言ってマンツーマンの個別塾だと集団塾より金額が高すぎて通えませんでした。なので子供も塾へ行って勉強することを諦めていましたが、キッズドアのオンラインを偶然知る機会があり、参加できたことでそれまでは描けなかった子供の将来の進路を計画立てて、本日の合格発表で実現することができました。

5-3. 困窮子育て家庭支援（ファミリーサポート）

ファミリーサポート事業の概要

日本全国の困窮子育て家庭の3,000世帯超のデータベース

ファミリーサポート事業は、2020年コロナ禍によって経済的にさらに厳しい状況となってしまった家庭を緊急支援する「コロナ災害支援」として発足し、現在も継続しています。支援の柱は、食品や文具などの物資支援、奨学金や行政の給付金などの情報を届ける情報支援、より生活を安定させるための就労支援です。

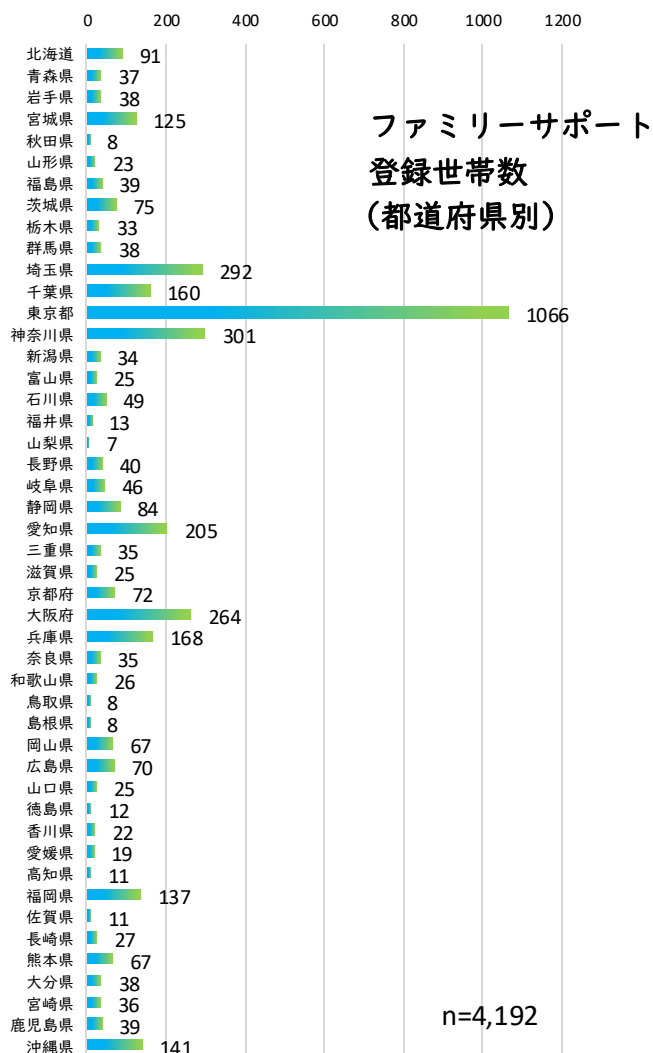
アンケートから政策提言につなげる

登録ご家庭には様々なアンケートにご協力をいただいています。アンケートの回答率は大変高く、迅速に困窮子育て家庭の厳しい状況やニーズをレポートにまとめ、アドボカシーやロビイングに活用することで、児童手当の高校生世代への期間延長、児童扶養手当の所得限度や第3子以降加算額の引き上げも2024年秋から実施されるなど、大きな成果につなげました。



2023年度の活動

登録世帯数	4,193世帯
子どもの数	7,984人
その他物資支援	延べ 8,585世帯 27,472人
	その他物資支援内容<一部抜粋> スポーツシューズプレゼント 360世帯 スニーカープレゼント企画 488世帯 無料ラーメンチケット 2,638世帯
食料支援	2回 4,972世帯
情報配信	配信回数 184回 配信者数 延べ 571,496人
体験活動	開催回数 30回 参加者数 延べ 1,489人



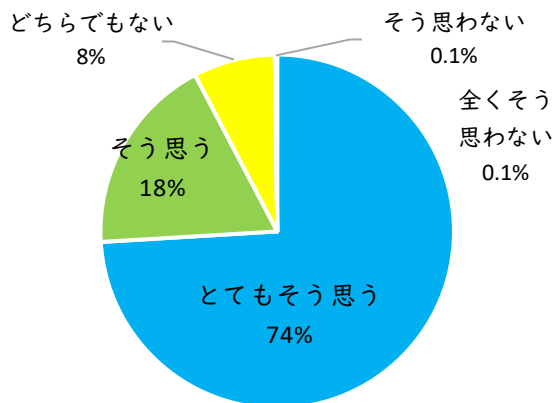
5-3. 困窮子育て家庭支援（ファミリーサポート）

ファミリーサポート事業の社会的インパクト調査を行いました

ファミリーサポート利用家庭にどのような利益をもたらしているのかを測るために、2023年3月末に登録世帯にアンケートを実施し、1,616件（回答率50.3%）の回答を得ました。利用者に大きな成果を与えていることがわかりました。

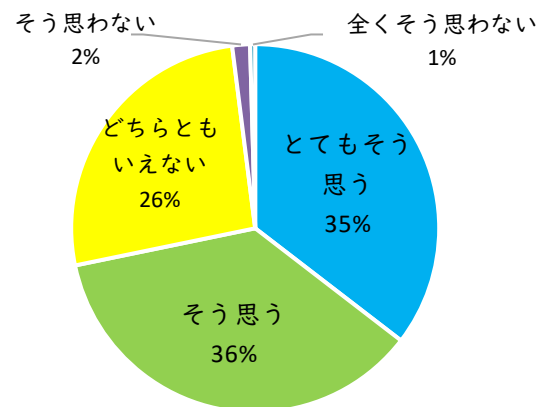
登録してよかった？

「とてもそう思う」「そう思う」**92%**



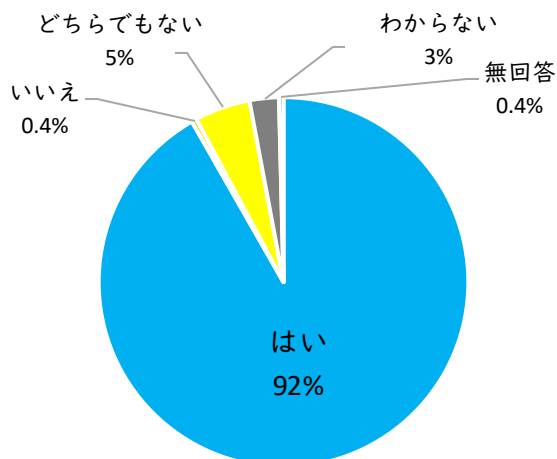
登録してから自身により変化があった？

「とてもそう思う」「そう思う」**71%**



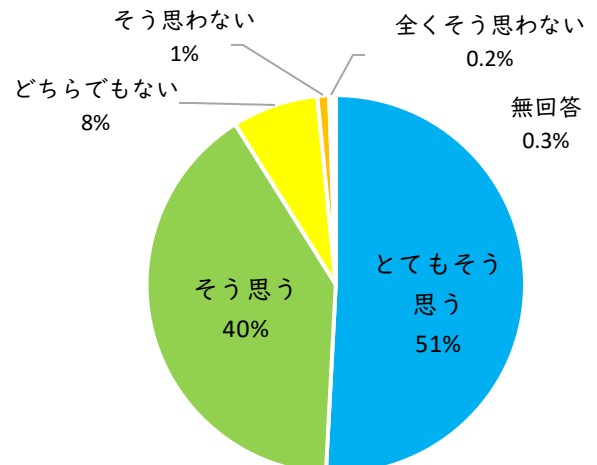
ファミリーサポートからの情報は役に立つ？

「はい」**92%**



ファミリーサポートからの情報は必要？

「とてもそう思う」「そう思う」**91%**

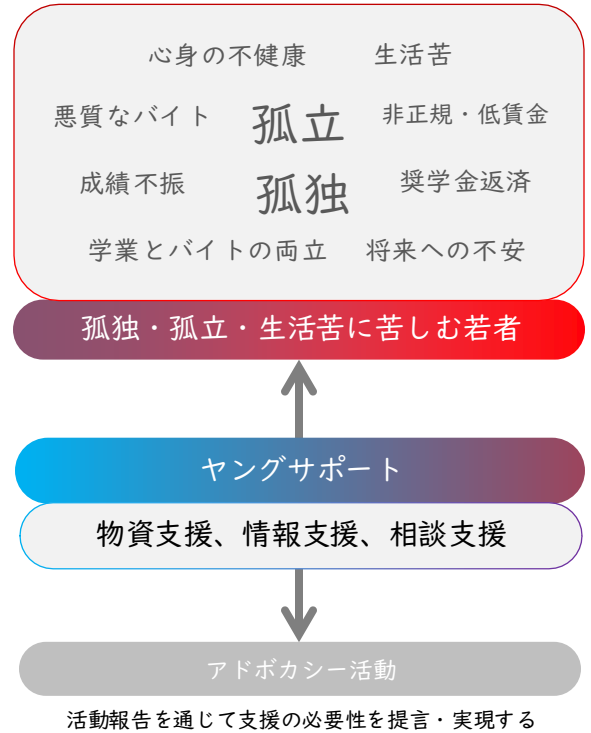


5-4. 18歳以上の若者支援（ヤングサポート）

若者の困窮と孤独・孤立の実態

困窮家庭の子どもたちの中には、高校卒業後に進学や就職をしたあとも、十分な収入を得ることができずに経済的に苦しい生活を送るケースが目立ちます。その背景には、奨学金だけでは学費や生活費を賄うことができない、学業とアルバイトとの両立が難しい、低賃金や非正規での就労をせざるを得ない、経済的に家族を頼ることができないといった状況があります。

このような若者は、一見すると普通の生活ができていても、強い孤独や不安を感じており、学業や仕事でのちょっとしたトラブル、健康問題といった些細なきっかけで、中退や退職、借金といった更なる困窮につながる事態へと陥ってしまいます。

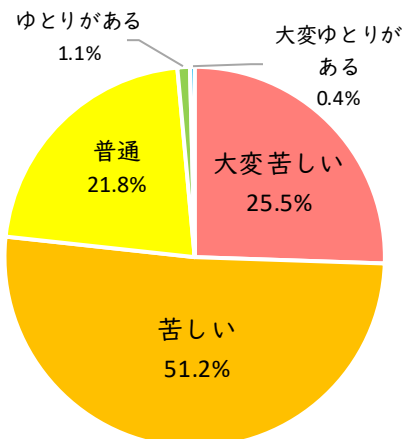


ヤングサポートの概要

キッズドア・ヤングサポートは休眠預金活用事業として2023年度にスタート。生活が苦しく、孤独・孤立を感じる若者と繋がり、必要な物資や情報、相談窓口を提供することで、深刻な困窮に陥ることを未然に防ぎ、順調な生活を送るためのサポートを行いました。また、オンラインでの事業報告会を開催することで、困窮する若者の実態と支援の重要性を広く社会に向けて発信しました。

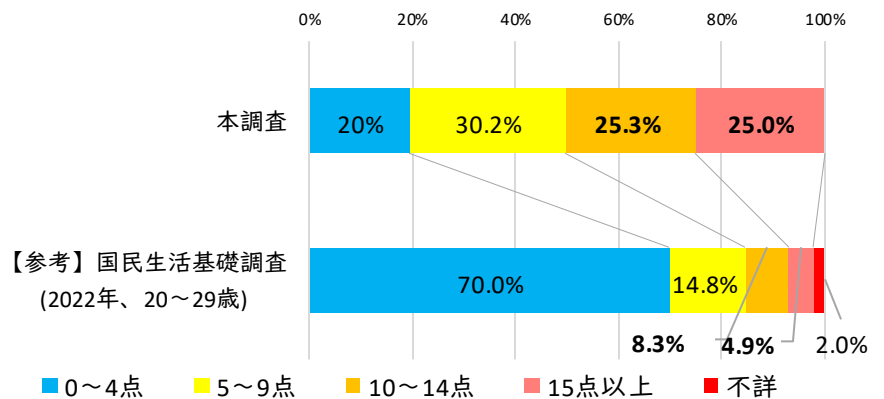
【暮らしの経済状況】

「苦しい」が77%に達するという、困窮する若者の精神的ストレスの強さが明らかになりました。



【K6スコア（心理的ストレス等の指標）】

気分障害・不安障害相当とされる10点以上の割合が、一般的な同年代の結果を大きく上回りました。



対象：キッズドア・ヤングサポート登録者、期間：2023年10月～2024年1月、回答数：1,508件

5-4. 18歳以上の若者支援（ヤングサポート）

2023年度の活動

登録者数（日本国内在住の18～29歳）	2,735人
物資支援	1回目 1,501 箱 2回目 1,477 箱
情報支援 セミナー開催	7 回
セミナーの 延べ参加者数	157 人

※ 2024年2月19日時点

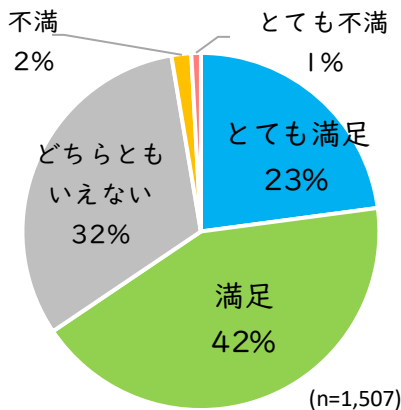
※ 約20食分の食料が入った応援BOXを送付。

※ 若者が陥りやすい危機や生活を豊かにするテーマのオンラインセミナーの開催。悩みや不安の解決方法やアドバイス、相談機関を紹介するオフィシャルサイト「ユースナビ」の開設。

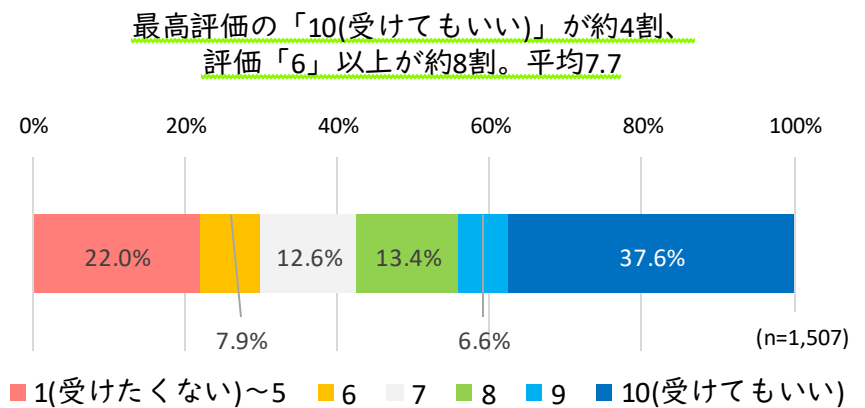
ヤングサポートのインパクト

ヤングサポート登録者へのアンケートでは、65%がヤングサポートに満足と回答しました。また、キッズドアの支援を受けて、多くの回答者が今後公的機関等の支援を受けてもいいと思うようになっていることも分かりました。

【ヤングサポートの満足度】



【公的機関やNPOの支援を受けてもいいと思うようになったか】



登録者から寄せられたメッセージ

- ✓ 金銭的に困っていたので食べ物の物資がいただけたことが1番心の安定につながりました。
- ✓ 支援boxが本当にありがたくて、バイトと学業の両立が前よりできるようになった。支えてくださる方がいると知って、今まで漠然と抱えていた不安などが和らいだ気もする。
- ✓ 自分からとりにいけない情報を貰えるので、新しく調べるきっかけになるのが助かっています。
- ✓ お金のことやワーホリのことなど、これから自分にとって必要になることについての講演会を頻繁に行なってくれるので、とても助かっています。
- ✓ 現在の状況などをオンラインで家族以外の人に相談出来たことが自分の中で気持ちが楽になった気がします。
- ✓ 生活面、収入面についてはなかなか相談したり、支援してもらえないことがないので、自分の悩み等を真剣に向き合ってくれる場所が一つでもあることが心強いと思う。

5-5. 外国ルーツ家庭支援

現場での直接支援

海外にルーツのある子どもとの関わりも増える中、2022年、みてね基金の支援を受けて、東京都足立区竹ノ塚に、現場で支援活動を行う KICC（キッズドア国際交流センター）を開所しました。



KICCでは、次のような支援を実施しています。

- ①日本語指導 ※2021-23は足立区からの受託事業
- ②居場所・体験活動
- ③プレスクール ※他団体との協働
- ④大人向けの日本語カフェ
- ⑤親子イベント
- ⑥ウクライナ支援
- ⑦研修
- ⑧他団体とのネットワーク

多言語情報支援



外国ルーツのご家庭の為の
情報支援ポータルサイト

<https://koto-koto.jp/onboarding/>

「ことこと」は外国にルーツのある子どもや保護者に、日本の学校の行事や授業、日本独特の文化などを紹介するオンラインの情報支援サービスです。

アクセスすると、現在の月の学校行事、日本の文化や行事が表示されます。毎月4程度の新しい記事を更新していて、その内容は、国や行政の給付金や支援制度から、日本の夏休みの過ごし方など多岐にわたります。

サイトは、スマートフォンからアクセスして使いやすいように設計されています。2023年には、キッズデザインアワードを受賞しました。

ことことは、みてね基金の支援を受けて開設されました。



KIDS
DESIGN
AWARD
2023



5-6. 中間支援団体としての活動の広がり

子ども支援の担い手の輪を全国に広げる

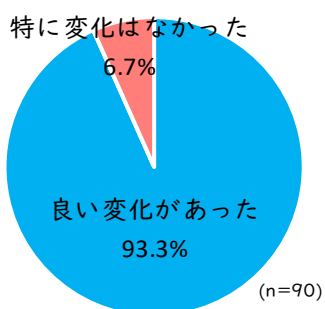
子育て家庭への直接の支援に加え、日本の各地域で活動する子ども支援団体への支援にも取り組んでいます。個々の団体では難しい助成金活用の支援、研修によるノウハウ共有や団体のネットワーク化によって、子ども支援の担い手の輪を広げています。

全国のこども食堂等をサポートする「ごはん応援プロジェクト」

「ごはん応援プロジェクト」は、こども家庭庁の助成を受け、キッズドアが中間支援団体として全国のこども食堂等事業者を支援する取り組みです。2023年度は175団体を支援、最終的に485,000食に相当する食料をひとり親家庭などに届けました。こども食堂等を運営する団体やこども食堂等の利用者を対象にしたアンケートからは、「ごはん応援プロジェクト」が、多くの家庭の食事の助けになったこと、さらに、支援を必要とする家庭との関係づくりや利用者の精神面の支えとしても大きな効果があったことが分かりました。

支援団体数	延べ 175 団体	支援人数（概算）	延べ 138,700 人
助成総額	約 2億3,813 万円	支援食事数（概算）	485,000 食

支援団体アンケート

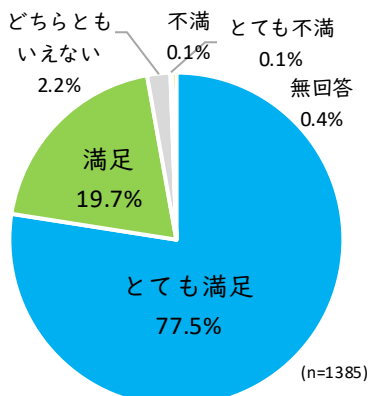
【団体の活動の変化】
(PJ助成期間中)

「良い変化」の具体的内容

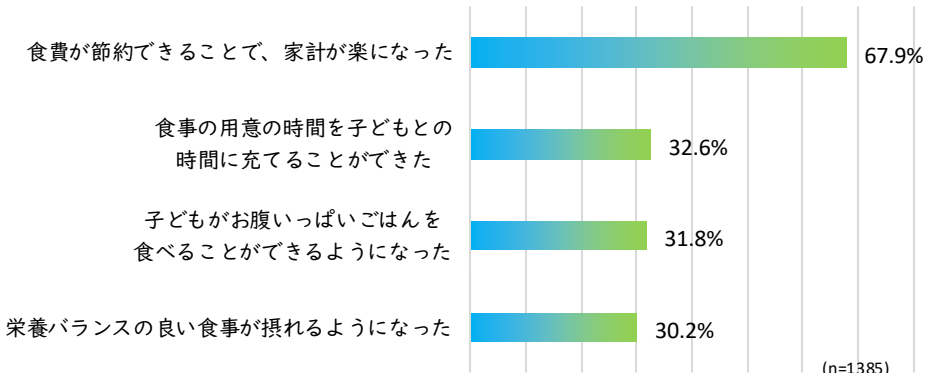
- ✓ 家で満足な食事を食べられない子に、こども食堂で食事を提供することで、お腹を満たし気分も満足してもらえた。
- ✓ 助成金を受ける前は、月に1回しか開催できなかったが、月2回に増やすことができた。
- ✓ これまで以上に多くの方々へ支援を届けることができ、活動について知っていただくことができた。また継続的な支援につながるような関係づくりや地域に存在する次の課題等も見えてきた。

こども食堂利用者アンケート

【利用者の満足度】



【食料支援利用による家庭や子どもの変化】



5-6. 中間支援団体としての活動の広がり

子ども支援の担い手を育てる研修事業

学習支援者スキルアッププロジェクト

三菱商事の支援を受けて日本全国の子ども支援団体等を対象に実施している研修。参加団体をネットワーク化し、継続的な支援や助成金情報などを提供、地域で支援が受けられる子どもの数を増やしています。

スキルアップ
研修参加者数
(2021年3月
～2023年6月)

240人
146団体

フォローアップ
研修参加者数

736人

フォローアップ研修

子どもの学習支援に関わる人を対象に知識の共有を目的として実施している研修。



学習支援者スキルアッププロジェクト合宿勉強会の様子。子どもの支援や団体の目指す姿など、研修参加団体同士で活発な意見交換が行われました。

学習支援マネージャー養成講座

プルデンシャル生命の支援を受け、子どもへの学習支援を行う団体や団体職員向けに実施している講座。

講座参加者

26人 25団体

子ども・若者支援プラットフォーム（HOPE）伴走支援事業

HOPE（ほっぺ）は、連合東京が事務局を担い、キッズドアを含めた5団体が企画・運営団体として、教育支援・就労支援・政策提言・情報共有を行う取組です。キッズドアは主に教育支援を担当、こども食堂などが行う学習支援の立上支援・伴走支援等を行いました。

支援人数

延べ **32人**

支援した団体

3団体



5-7. コレクティブインパクト

企業や他団体とともに生み出す大きなインパクト

企業や行政、NPO等の他団体と協働した複数のプロジェクトも推進。様々な分野の団体が力を合わせ、それぞれの持つノウハウ・リソースを活用することによって、キッズドアだけでは解決できなかった課題に取り組むことが可能となり、社会的にも大きなインパクトを生み出すことができました。

IFUTO

千葉大学dri、プロジェクト希望と協働して実施した「IFUTO」は、経済的に困難な環境にある女子高生を対象に、ITへの興味・関心を高め、将来の仕事の選択肢を広げてもらうための教育プログラムです。子どもたちは、デジタルスキル、デザインやマーケティングを学び、Tシャツのデザイン・制作、ネットショップでの販売などを体験。さらに、将来の自分について考えるきっかけとなるキャリアトークやオフィスツアーにも参加しました。

協働	千葉大学 dri 一般社団法人 プロジェクト希望		
協賛	一般財団法人 三菱みらい育成財団	デザイン フェーズ	デザイン授業 デザインワークショップ メタバース体験 キャリアトーク オフィスツアー 発表会
協力	Adobe、Lenovo、EY Japan、C.A Techkids、株式会社小倉メリヤス製造所、有限会社アートランド、ZOZO、SONY企業、コロンビア大学理事花沢菊香氏	2023年7・8月	
プログラム参加者総数	56人	メタバース・マーケティングフェーズ	AR/VR授業 マーケティング授業 キャリアトーク オフィスツアー 発表会
デザインフェーズ	27人	2023年10～12月	
メタバース・マーケティングフェーズ	29人		



プロジェクト希望 平井一夫氏による
キャリアトーク



デザインを学ぶ参加者



チームデザインTシャツの
プレゼンテーション

参加者から寄せられたメッセージ

- ✓ マーケティングやメタバースに限らず、貴重な経験（キャリアトーク）をさせて頂きました。自分からパソコンを開くようになったのが、自分でも驚きです。
- ✓ 人と協力しないとできないプロジェクトだからこそ、誰かと相談して、アドバイスし合い、実際やって見て改善するというのが楽しかった。だからこそ、自分の思いや考えを形にできるメタバースという空間を知れたし、自分のアイデアを形にする手段が増えて凄く嬉しい。
- ✓ 最初は不安や分からないことなどがあっただけ周りのサポートが沢山ありグループのTシャツも何とか完成出来てとても楽しかったです。そして新しいことに挑戦する楽しさをまた思い出せたので今後の進路の中ではどんどん挑戦していきたいです。

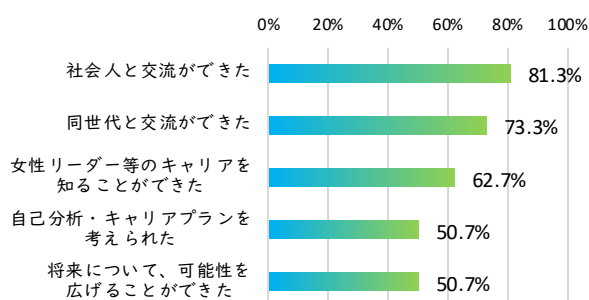
5-7. コレクティブインパクト

STEP FOR TOMORROW

世界的な金融機関であるJ.P.モルガン社の協賛を受け、高校生世代の女子を対象に自身のキャリアについて考えるプログラムを開催。参加した子どもたちは、半年間のプログラムの中で、J.P.モルガン社員メンターとの対話、社会で活躍する女性リーダーたちのキャリアトーク、コミュニケーションスキル講座等を通じて、自分と向き合い、自分の可能性や将来のイメージなど多くの気づきを得ることができました。

参加者数	89人
開催回数	21回
実施期間	2023年10月～2024年3月
協賛	J.P.モルガン社

【参加して良かったこと（複数回答）】



【キャリアトーク講師陣】

酒向萌実氏（武蔵野市議会議員）／浜田敬子氏（ジャーナリスト/Works編集長）／原ゆかり氏（株式会社SKYAH（スカイヤー）CEO）／及川美紀氏（株式会社POLA 代表取締役社長）／岡本純子氏（コミュニケーション戦略研究家/エグゼクティブ・スピーチコーチ）／加藤史子氏（WAmazing株式会社/代表取締役CEO）

IT DRIVE

無線通信技術等のリーディングカンパニーである外資系IT企業の支援を受け、子どもも楽しむことのできるmicro:bitを使ったプログラミング教室、女子中高生が自身のWebサイトを作成しながらITに親しむITチャレンジガールズキャンプなど、多様なプログラムを開催。子どもたちにITの体験機会を提供しました。

参加者数	429人
協賛・協力	外資系IT企業、アントレキッズ社、Code for Adachi等



micro:bitを使ったプログラミング教室の様子。

参加者から寄せられたメッセージ

- ✓ 将来のやりたいことを、具体的に考えるきっかけになったと思う。
- ✓ ITについてあまり詳しくなかったのですが、プログラマーやシステムエンジニアぐらいしか聞いたことがなかったのですが、他の様々な職種があることを知り、それぞれの職種の役割や違いについて学んだことで“IT”を前よりもっと身近に感じることができました。
- ✓ 自分でサイトのデザインができて楽しかった。ボタンをどこに置けば使いやすいかなど工夫されていることを新しく知った。手間が多くて難しかったけれど自分が思うようにできて楽しかった。

5-7. コレクティブインパクト

ゴールドマン・サックス大学受験給付型奨学金

ゴールドマン・サックスの「経済的理由で進学をあきらめないでほしい」という思いのもと、ゴールドマン・サックス、キッズドア基金、キッズドアが協働した奨学金事業では、ひとり親家庭や社会的養護等、大学進学に経済的困難を抱える高校生世代をサポート。ゴールドマン・サックスの支援を受けて、キッズドア基金が奨学金事業を実施、キッズドアは奨学生への受験関連情報配信や応援グッズ送付、イベント開催等の伴走支援を担当しました。また、ゴールドマン・サックスの社員も、奨学金の審査や応援グッズの送付等にボランティアとして参加しました。

奨学金支給総額	9,285万円
受験応援金5万円	671人
入学準備金10万円	593人



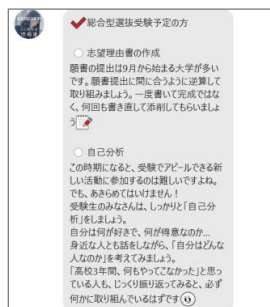
進学祝いと新生活に向けた励ましのイベント

【応援グッズ送付】

応援グッズ送付	3回
受験関連情報のLINE配信	25回

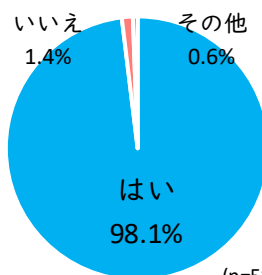


応援グッズ



LINEメッセージ

GS奨学金は受験の後押しとなったか？



【大学等進学者数】

大学等進学者数	593人	国公立大学	99人	私立大学	428人	短大・専門学校・その他	66人
---------	------	-------	-----	------	------	-------------	-----

奨学生から寄せられたメッセージ

- ✓ 経済的な理由や、家庭環境から孤独感を感じることも多かったですが、奨学生に選んでいただいたことで、「誰かが自分のことを応援してくれている」と思えて、頑張れました。
- ✓ 今回のご支援のおかげで受験校を増やし、安心して第一志望の大学を受験することが出来ました。大学入学前、受験にフォーカスして支援して下さる奨学金は少ないので本当にありがたかったです。

保護者から寄せられたメッセージ

- ✓ 親を11年前に亡くし、兄弟は本人を含め4人います。経済的に非常に厳しい中この奨学金対象者にさせていただき安心して受験することができました。合格した大学で大好きな物理を学べることを大変楽しみにしています。
- ✓ 娘はゴールドマン・サックスの募集広告メッセージに心を動かされて、大学受験へと走り出しました。夢を諦めたくないと言った時は、内心これから大変だ、どうしたらいいんだと頭を抱えましたが、今となってはあの時、娘の本音が聞けてよかったと、しみじみ思います。

5-8. アドボカシー

困窮子育て家庭の「今」を把握し、発信する

終わりの見えない物価高騰の中、困窮子育て家庭は、日々の食事も満足にとれないといった深刻な打撃を受けています。2023年度は、定期的な調査によって、物価高騰が困窮子育て家庭の生活全般に及ぼす影響を把握するとともに、高校生世代のアルバイトや進学、デジタル環境、若者の困窮等の個別のテーマについても積極的に調査活動を実施しました。

調査と現場の支援活動で把握した困窮子育て家庭の実態や課題、当事者の声は、メディア等を通じて広く社会に発信しました。必要な支援や制度改善を実現するための政策提言の機会として、記者会見や講演会、オンライン報告会等も複数回実施しました。



調査	8件
記者会見	3回
講演会等	25回

物価高騰の影響を把握する調査

2023夏 物価高騰 緊急アンケート	物価高騰やコロナ禍の家計・食事・子どもへの影響、保護者の心身の状況、賃金上昇等
2023冬 困窮子育て家庭 アンケート	物価高騰の家計・食事・子どもへの影響、不登校、保護者の就労や賃上げ、増収の課題等



記者会見を実施。
困窮子育て家庭の実態を広く伝えるとともに、緊急の現金給付や非正規等の賃上げを訴え。

個別テーマに関する調査

高校生世代 アンケート	高校生活にかかるお金、アルバイト、進路や進学後の奨学金利用、進学の不安等
オンライン居場所 アンケート	オンライン居場所の利用意向や期待・課題、家庭のデジタル環境、デジタルスキル等
ヤングサポート アンケート	学費・生活費の実態、就労の状況、孤独感やストレス、ヤングサポートの満足度や受援力への影響等



記者会見やオンライン報告会を実施。
進学格差、デジタル格差、若者の困窮などの実態とキッズドアの取組を報告し、さらなる支援の必要性を提言。

5-8. アドボカシー

2023年度 メディア掲載

新聞・テレビ・ラジオ・インターネットメディア等 181回

【2023年度メディア掲載例】

2023.4.26	NHK総合テレビ	おはよう日本 体験格差について（キッズドアの学習会に通う子どもと保護者の話紹介）
2023.5.4	時事ドットコム	「人生格差」に目配りを 少子化対策で欠く論点（理事長渡辺執筆原稿）
2023.9.19	日本経済新聞	大学進学格差を縮小するには 受験料、困窮層に給付を（理事長渡辺執筆原稿）
2023.12.5	FNNプライムオンライン	困窮世帯の8割近く「去年と比べ家計厳しくなった」（厚労省での記者会見で発表したアンケート調査結果紹介）

アドボカシー活動の成果

2023年度は、物価高騰で深刻な打撃を受けている困窮子育て家庭への現金給付が実現し、進学格差解消のための受験料支援も実現する方針が決まりました。さらに、長く提言を続けてきた児童手当の高校生年代への期間延長、児童扶養手当の所得限度や第3子以降加算額の引上げも2024年秋から実施されています。



左：参議院「国民生活・経済及び地方に関する調査会」に理事長渡辺が出席、支援の必要性を訴え。

（2023.4.12）

右：「2023冬困窮子育て家庭アンケート」結果を報告する記者会見。

（2023.12.5）

低所得世帯への生活支援特別給付金

- ✓ 対象：児童扶養手当受給者等、住民税均等割非課税の子育て世帯
- ✓ 児童1人あたり一律5万円

低所得子育て世帯への受験料支援

- ✓ 対象：住民税非課税または児童扶養手当受給世帯等
- ✓ 大学等受験料 子ども1人あたり53,000円まで
- ✓ 模擬試験受験料 子ども1人あたり年間8,000円（中3生は6,000円）まで

児童手当制度の変更

- ✓ 高校生年代までの支給期間延長（月額10,000円支給）
- ✓ 第3子以降の支給額増額（月額30,000円支給）

児童扶養手当制度の変更

- ✓ 所得限度額の引上げ
- ✓ 第3子以降の加算額を第2子と同額に引上げ

5-9. ファンドレイジング

2023年度 クラウドファンディングの取り組みと実績

総支援総額 **31,719,000** 円総支援者数 **1,774** 人

5月29日から7月31日にて実施した「夏休み緊急支援クラウドファンディング」では、最終的に「総支援額 31,719,000 円／総支援者数 1,774 人」として、当初目標を大幅に上回るご寄付を募ることができました。ご支援いただいた寄付は、困窮子育て家庭への食糧支援・夏休みの体験活動・学習会の運営に活用させて頂きました。皆様からの多大なるご支援、本当にありがとうございました。



成立

夏休み 緊急食料支援

1日分の食費は一人300円
「お腹が空いたら水を飲んでいる」
「夏休みの間に痩せてしまう...」

全国の子どもたちへ この夏を乗り切る支援を。

KIDSDOOR
NPO法人 キッズドア

寄付総額 **31,719,000**円 目標金額 30,000,000円

寄付者 1,774人 募集終了日 2023年7月31日

終了報告を読む

72

<https://readyfor.jp/projects/...> コピー

専用URLを使うと、あなたのシェアによってこのプロジェクトに何人訪れているかを確認できます

Facebook X LINE note

【寄付者から寄せられたメッセージ】

- ✓ 応援しています。頑張ってください！ご飯が満腹に食べられない子供がいなくなるように、未来をお祈りしています。子供達が良い夏休みを過ごせますように
- ✓ ささやかなお手伝いですが、生きる楽しみや希望を持った子供たちが、一人でも多く育ててほしいと思います。実行に当たる皆さんは大変だと思いますが、体に気を付けて頑張ってください！
- ✓ 渡辺理事長に大学院の授業で講義をしていただき、子どもたちだけでなく親御さんも食事を我慢されている状況を知りました。一人でも多くの親御さんと子どもたちが笑顔になれますように。
- ✓ 直接の支援は出来ませんが、少しでもお役に立てればと思います。本来は、国がもっと子どもたちを大切にする施策を実施してくれたらと...
- ✓ すべての子どもたちが楽しい子ども時代をおくれる社会にしたいです。このような機会を設けてくださりありがとうございます。
- ✓ 少しでも力になればと思い寄付させていただきました。今、苦しい状況にあるのは決して自己責任ではありません。頼れるものには頼っていいのです。
- ✓ 常日頃から、この社会には個人の力ではどうにもならない構造的な問題があると思います。金額的には大した支援ができず申し訳ありません。今年はとりわけ暑いですが、どうか皆様お体に気をつけて、とにかくこの夏を乗り切りましょう。
- ✓ 小学生と保育園児の母親です。物価高の影響を受けて、我が家も決して楽ではないですが、目を覆いたくなる状況に背を向けてはいけないと思い、僅かですが、参加させて頂きます。
- ✓ 本当は、国が今すぐに、責任を持って取り組まなければいけない大事な大事な問題ですね。行動してくださって、ありがとうございます。私も出来ることをお手伝いしたいと思います。頑張ってください。応援しています！

6. ガバナンスと内部体制の強化

すべてのステークホルダーからの信頼を得るために

キッズドアは、2021年10月に東京都から認定を受け認定NPO法人となりましたが、認定NPO法人として今後も信頼に足る団体であり続けるためには、組織拡大に耐えうるガバナンス・内部統制の強化が必要となります。ガバナンス・内部統制の強化は、法人運営の透明性や公正性を前提に、法人の価値を増大させ、持続的成長を可能にするための仕組みです。



リスクマネジメント委員会の設置

リスク評価において特定されたリスクを適切にコントロールするためのアクションプラン策定、進捗確認、および新たな業務等に対するリスク評価を行うリスクマネジメント委員会を2022年に設置しました。インテグリティ総合研究所合同会社^(※)も同委員会に外部識者として参加、助言をいただきます。

コンプライアンス委員会の設置

コンプライアンス基準の強化、研修等を通じたコンプライアンスの徹底、コンプライアンス案件の早期発見・早期対応を行なう体制として2022年にコンプライアンス委員会を設置しました。同委員会にもインテグリティ総合研究所に外部識者として参加・助言をいただきます。

内部監査委員会の設置

同時に、社外理事を委員長とする内部監査委員会を設置し、執行部の外側から内部監査活動を指示・監督する機能を持たせます。

リスクマネジメント委員会 開催回数	3回	リスク外部評価結果報告書発行回数	1回 インテグリティ総研 原代表執筆
-------------------	----	------------------	-----------------------

^(※) インテグリティ総合研究所合同会社 / コンプライアンス&企業倫理コンサルティングサービスを提供。代表の原誠一氏は、日本債券信用銀行、PwC Japan在籍時から、官公庁や大手金融機関向けにリスク管理態勢全般のコンサルティングを行っている第一人者。

キッズドアの活動は、
みなさまからのご寄付によって支えられています。
無料学習会や体験活動を必要としている子どもやそのご家庭に
届けるため、ぜひ財政的なご支援をお願いいたします。

ご寄付について

月々1,000円から毎月一定額を継続的にご支援いただけます。また、その都度寄付をすることも可能です。ウェブサイトから、クレジットカードで簡単にお手続きしていただけます。

税制優遇について

キッズドアにご寄付いただいた場合、税制優遇を受けることができます。

詳しくはこちらをご覧ください

<https://kidsdoor.net/support/>



認定特定非営利活動法人キッズドア

URL : <https://kidsdoor.net/>

e-mail : info@kidsdoor.net

東京

〒104-0033
東京都中央区新川2-16-10 プライムアーバン新川2階
TEL. 03-5244-9990 FAX. 03-5244-9991

東北

〒983-0852
宮城県仙台市宮城野区榴岡3-2-5 サンライズ仙台2階
TEL. 022-354-1157 FAX. 022-355-2071

キッズドア調査室
2024年11月8日発行